造士館講座

10年のあゆみ

記念式：鹿児島大学

2015年11月21日

造士館講座 運営委員会

記　念　式　式　次　第

会場　鹿児島大学共通教育棟２号館

式　辞	島津　修久　造士館講座 館長
講座の現状と今後の課題	江口　正純　造士館講座運営委員長
講師代表祝辞	大渕　貴之　鹿児島大学教育学部准教授

祝賀会　　会場　教育学部食堂[エデュカ]

開会の辞	江口　正純　運営委員長
乾　　杯（発声）	吉田　浩己　顧問
祝　　辞	海江田順三郎　運営委員会顧問
	内田　純郎　受講者代表
懇　　談	
締　　め	姫木　祐太郎　運営委員（学生代表）
閉会の辞	福留　克彦　　運営委員

造士館講座　10年のあゆみ

平成17年（2005年）11月　造士館講座の発足を協議する準備委員会開催
出席者　島津修久、西郷隆文、
白石宗靖（漢字文化振興協会事務局長）
岡崎弘也、川野和昭

平成18年（2006年）4月　「論語講読」開講　講師 末永高康 鹿大教授

平成18年（2006年）8月　夏期集中講座開講（日程：2日間　4講座）

平成19年（2007年）7月　特別講座「徳川家と島津家」

平成20年（2008年）7月　特別講座「島津家11代忠昌公の業績」

平成23年（2011年）4月　「自己啓発セミナー」開講

平成25年（2013年）3月　第11回全国藩校サミット鹿児島大会開催
記念講演　石川忠久氏「鹿児島の漢詩」
映像で見る鹿児島の教育
鼎談「人間を育む」
末吉竹次郎氏、吉田浩己氏、原口泉氏
体験発表 大学生２人
大会宣言〈先人に学び行動し続ける〉

平成25年（2013年）　4月　「論語講読」の講師に大渕貴之 鹿大准教授

平成25年（2013年）　9月　特定非営利活動法人（NPO）認定申請の準備

平成25年（2013年）11月　特定非営利活動法人設立総会

平成27年（2015年）　4月　特定非営利活動法人として正式に発足

平成27年（2015年）11月　造士館講座開設10周年記念式

伝統に学び、次世代を育てる

「造士館講座」は、開設以来10年の歳月を重ねてきました。これまでを振り返って、講座の理念を再確認し、次の発展を期したいと思います。

改めて淵源をたどると、「造士館」は江戸時代に薩摩藩が鹿児島の地に設けた「藩校」の名称に由来します。安永2年（1773年）に藩主・島津重豪が創設し、嘉永4年（1851年）に島津斉彬がこれを改革して拡充しました。藩士の子弟の健全育成を目的とする藩政時代の教育施設で、若者たちが勉学と鍛錬に励みました。西郷隆盛や大久保利通たちもこの造士館で青少年時代を送りました。

（資料によれば、武士の子弟以外の庶民もここで学ぶことができました）

明治の世になって新しい学制が敷かれ、教育は国の事業に様変わりしましたが、「造士館」の名称は消えずに、新しく設立された鹿児島県立中学校に引き継がれ、明治34年（1901年）に官立第七高等学校造士館（略称七高）が発足すると、その正規の校名になって広く長く親しまれてきました。このように「造士館」は県民に愛され尊敬され続けて、数百年を生き延びてきました。それは、藩政時代から優れた機能を持つ教育機関として高く評価されてきたからでした。「造士館講座」は、崇高な理念のもとに多くの人士を生み育てた藩校造士館の営みの一端を現代社会に興して、その伝統に学び、大きくは人類の福祉に役立ちたいという理想を掲げて、平成18年（2006年）に発足しました。

時代が大きく変わり、人々の心の有りようも変わってきました。これから人生を築いていく若い人達が人生の指標を見失っているように見えたりします。造士館講座は、若い人たちの精神の拠り所になって「進取の気風」を涵養する場になり、また生涯学習や家庭教育にも思いを致す存在でありたいと念願しています。めまぐるしく変転していく現代社会では、真の意味で教育の果たす役割がいっそう重要になっています。微力ながら、その一端を担う覚悟です。

全国藩校サミットを主催

平成25年（2013年）3月、第11回全国藩校サミットが鹿児島市で開催されました。造士館講座運営委員会が主催者になって、企画・運営に当たり、島津藩の教育の評価、現代に活かされているその精神等を紹介し、旧藩の当主をはじめ参集した各地の藩校の皆さんたちから高い評価を得ました。過去のサミットが行政中心に計画されたのに対して、鹿児島大会は「完全民営」で、画期的だと賞賛されました。

「論語」を読み、地元講師の話を聞く

漢字文化振興協会（東京）の会長で漢詩の権威 石川忠久氏は、漢字をはじめとして日本の精神文化を軽視する現代の風潮に警告を発し、伝統の文化を尊重する気風を涵養する行動を提唱され、その一環として、藩政時代の教育の土台であった藩校の評価を旨とする全国藩校サミットが企画されました。平成 14 年（2002 年）に第１回を開催し、その後毎年実施されています。

この漢字文化振興協会の提唱に呼応して、鹿児島でも市民を対象にした学術講座を始める機運が生まれました。県歴史資料センター黎明館および旧薩摩藩の流れを汲む 32 代当主の島津修久氏、それに県高校国語部会長だった岡崎弘也らが中心になって、準備委員会が発足し、名称を「造士館講座」と決めて、黎明館を会場にして講座が始まりました。

講座は「造士館に学ぶ」趣旨に沿って、藩校造士館で青年達が必須の科目として学んでいた『論語』の講読を柱に据えて、薩摩藩のテキストだった山崎闇斎訓の『論語集注』をそのまま読むことに始まり、現在でも継続しています。講師は末永高康氏（鹿児島大学教授＝現広島大学）、大渕貴之氏（鹿児島大学准教授）にお願いし、両氏が交代する間の１年を岡崎弘也が務めました。

論語講読のほか、講座スタート後の２年間は「特別講座」を開設して、徳川家と島津家の関係、朱子学の祖・桂庵玄樹を薩摩に招いた島津忠昌について学びました。また「夏期集中講座」を８月に２日間、４講座を開いています。

５年目の平成 23 年（2011 年）には「自己啓発セミナー」を加えました。地元の鹿児島から講師を迎えて時宜にあった講話を聞くのが目的で、新しく社会人になった新入社員の研修などにも利用されています。造士館講座は現在、論語講読、夏期集中講座、自己啓発セミナーの３本建てで運営されています。

会場は黎明館から鹿児島大学に移りました。鹿児島大学は戦後、旧七高と他の高等教育機関を統合して創立しましたが、造士館の精神を受け継いで「進取の気風」を標榜しています。造士館講座を地域の生涯教育の一環と位置づけて、教場を提供し、資金面の支援もいただいております。

講座は平成 26 年（2014 年）に特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）の認定を受けて、法人格を持った講座として再出発しました。講座の構成は不変です。

講座は会員制を敷いて、個人会員と企業などの特別会員によって運営していますが、随時聴講する方たちにも会員と同様に受講していただいています。

講師の声　郷土の文化的伝統を守る論語講読

鹿児島大学教育学部准教授　大渕　貴之

造士館講座「論語講読」で使用するテキストは、鹿児島の藩校造士館で用いられた薩摩版『論語集注』です。『論語』に関する市民向け講座は、全国各地で行われておりますが、本講座のように土地の藩校で用いられた版本に基づいて読み進める取り組みは、他に例を見ないと思われます。仮に講座の目的が『論語』を学ぶことのみにあるのであれば、近年刊行の訳注書等をテキストに用いる方が、分かりやすく、手軽であるのでしょう。しかし、本講座は『論語』を学ぶと同時に、『論語』を学んでいた郷土の伝統を学ぶことを目的としています。如何に優れた文化的伝統も、それを継承する不断の努力があって初めて息を保ち続けます。本講座はまさに鹿児島の文化的伝統を守り、次代に継承せんとする市民の皆さまの崇高な志により支えられています。講座担当を仰せつかった身として、力及ばずながら奮闘致しておるところです。いつの日か本講座自体が鹿児島の文化的伝統をなることを心より願います。

受講者の声　造士館講座に感謝　別府　義昭

昨年４月に知人から講座の存在を知らされて以来の大のファンです。高校、大学の若い皆さんや各年齢層の方々と机を並べて学ぶ喜びは、格別です。

「論語購読」は、大渕先生の深い学識に加えて、周到に準備された資料と丁寧な注解に、毎回が感謝感激です。論語のもつ深遠な意味に触れて、当然のことながら己の読みの浅薄さを痛感しております。特にかつて藩政時代に多くの藩士が学んだ『薩摩版　論語集注』の書影であることが、とても魅力です。

私事ですが、私どもがやっている「三方限古典塾」がこの 11 月で 10 年目を迎えました。毎月１回開催し 109 回になりました。現在は、中国明代の儒者洪自誠著『菜根譚』です。私どもの田舎塾が当講座に及ぶべくもありませんが、配布資料への配慮や説明の仕方など、大渕先生に学ぶところ大です。

「自己啓発セミナー」は、各界の一線で活躍されている方々の講話を直に拝聴できる貴重な機会です。昨年の「夏期集中講座」でお聴きした山崎桂子先生の「土御門院女房日記との出合い」を、今も鮮やかに思い出します。

この貴重な講座がいっそう充実していくよう、運営委員会の皆様よろしくお願いいたします。

造士館講座　　平成27年度の日程・講師と演題

《論語講読》　　講師　大渕　貴之氏（鹿児島大学教育学部准教授＝平成25年度から）
4月11日（土）～28年3月5日（土）　第103講～113講まで 計11回

《自己啓発》

4月18日（土）　原口　泉氏（鹿児島県立図書館長）　「五代友厚～大阪の大恩人～」
5月16日（土）　伊牟田均氏（城山観光ホテル社長）「日本経済の課題と観光業界の動向並びに城山観光ホテルの現状と展望」
6月27日（土）　宮原　隆和氏（株式会社エルム社長）　「鹿児島から世界に！」
7月18日（土）　松田千恵美氏（かごしま犯罪被害者支援センター相談員）
「民間団体による犯罪被害者支援について」
9月19日（土）　石田　忠彦氏（鹿児島近代文学館アドバイザー）　「有島武郎とは誰？」
10月24日（土）　片桐資津子氏（鹿児島大学法文学部教授）
「日米比較からみる要介護高齢期の社会学」
11月21日（土）　島津　修久氏（造士館講座館長・島津家32代当主）
「島津700年の歴史の概観～海を見ていた殿様たち～」
12月19日（土）　上村亜由美氏（茶農家・茶寿会まとめ役）
「グリーンティーリズム～茶畑に観光バスがやってきた～」
28年1月30日（土）　古木　圭介氏（グローバル ユース ビューロー取締役）
「挑戦し続ける心～好奇心と実践力～」
2月27日（土）　大富あき子氏（鹿児島純心女子短期大学准教授・鹿児島県教育委員）
「アップルパイの美味しさの秘密を調理学的に考えてみましょう」
3月19日（土）　陶山　賢治氏（ＭＢＣ開発株式会社社長）
「薩長同盟150年にあたって～長州人から見た薩摩～」

《夏期集中講座》

8月8日（土）　永山　修一氏（ラ・サール高校教諭）　「隼人の時代とその後」
内山　弘氏（鹿児島大学法文学部教授）「文献で方言を研究するということ」
8月9日（日）　丹羽　佐紀氏（鹿児島大学教育学部准教授）
「シェイクスピアと『ヘンリー八世』～歴史的背景をめぐって～」
福田　晴夫氏「チョウも生きる、ヒトも生きる…チョウを追って65年…」

【過去の講座の概要】（平成22年度以前は省略）

◇ 論語講読　　平成18年度～23年度　末永　高康氏（鹿児島大学教育学部教授）
平成24年度　　岡崎　弘也氏（造士館講座運営委員会副委員長）

◇ 自己啓発セミナー

平成23年度　　原口　泉氏「藩校造士館の歴史」「島津斉彬の造士館改革と人材育成」
伊牟田均氏「私のキャリアと思うこと」　　森山道壮氏「リーダーの資質『高貴な虚』」
施少華氏　「外国人が見た日本・鹿児島」　　時任克暢氏「おかげさまを大切に」
江口正純氏「グローバル化の中で」　　高松英夫氏「塞翁が馬～人生ポジティブ思考」
岩崎佑子氏「大きな夢は小さな努力の積み重ね」
門田晶子氏「人間味のある職場～米国企業での18年間を地元企業の後継者として…」（裏へ）

平成24年度　原口泉氏「リーダーとしての西郷隆盛」　西郷隆文氏「西郷精神と郷中教育」
山中　寛氏「健やかに生きる自己コントロール」　津曲貞利氏「地域力を育む」
高嶺欽一氏「フクシマのかなしみ、と鹿児島」
丹羽謙治氏「幕末・明治の〝薩摩藩文化官僚〟木脇啓四郎に学ぶ」
玉川　恵氏「思いの強さを頼りに」
池田　弘氏「ビンボー物語～私立小・中・高校を創る～」
神田嘉延氏「郷中教育を現代的に学ぶ」
武隈　晃氏「リーダーの役割～状況に応じて、状況を超えて～」
平成25年度　原口　泉氏「造士館エリートが英国で学んだもの」
伊牟田均氏「地域とともに伸ばす経営」　小松恵理子氏「舞踊と生きる」
下村朋子氏「看護学生を育てるということ」
照沼　敏氏「人の動かし方～統率の理論と実践～」
ホセ・デルコス氏「希望に燃える未来」　濱田雄一郎氏「志としての本格焼酎」
平瀬葉子氏「銭湯で社会のルールを学ぶ」　上谷順三郎氏「国語教育の国際比較」
中島あや子氏「『源氏物語』を読む」　中村耕治氏「時代はローカルへ」
平成26年度　原口　泉氏「造士館と開成所150周年～漢学から英学へ～」
伊牟田均氏「観光業界ならびに城山観光ホテルの現状と展望」
山崎美智子氏「鹿児島再発見～通訳という仕事を通じて～」
大富　潤氏「錦江湾深海底は食の宝庫」　油田幸子氏「伝えたい『食は命』」
丹羽謙治氏「鹿児島の郷土史を考える～『木脇藤次郎日記』から～」
大和田明江氏「未来に向かって生きる道は～有機農業にかけた半生～」
江口英雄氏「いつも前に向かって歩きたい～ハートフルメッセージを～」
猪鹿倉忠彦氏「高齢化社会に備えて～認知症を考える～」
中田勝紀氏「日本・鹿児島経済の現状と先行き」
大迫忠之氏「異文化を『住めば都』と感じるまで」

◇　夏期集中講座　（平成18年度から現在まで＝一部を省略）
石川忠久氏「江戸の漢詩の味わい」「薩摩ゆかりの漢詩」「李白と杜甫」「漢詩の味わい」
島津修久氏「島津700年の歴史に学ぶ」　中島あや子氏「『源氏物語』の創造」
大島　晃氏「『論語』と『士』の意識」　「薩南学派　桂庵玄樹の学問」
山崎桂子氏「土御門院の生涯と和歌」　「私の古典文学研究～『土御門院女房日記』…」
高津　孝氏「『文は人なり』論の挫折」　大久保利泰氏「大久保利通の素顔」
松尾千歳氏「海洋国家薩摩-文化と技術の国」　謡口明氏「家族とともに生きる『論語』」
伊牟田經久氏「『倭文麻環』の世界」　末永高康氏「島津國史の漢文」
丹羽謙治氏「薩摩の滑稽本『夢中の夢』を読む」　「古典を学ぶということ」
原口　泉氏「郷校舎と造士館～薩摩の文教政策」　松尾善弘氏「西郷隆盛の漢詩」
川井田稔氏「垂水島津氏9代貴儔公・10代貴澄公の功績を考える」
前田芳實氏「未来農業を支える生物資源」　島津義秀氏「時代の節目に薩摩が動く」
幾留秀一氏「鹿児島の豊かな自然をどう見るか」
門田夫佐子氏「私たちはどう生きどう働くのか～新聞連載を通じて出会った人々」

造士館講座 運営委員会 名簿

館　　長	島津　修久	島津興業会長・島津家３２代当主
顧　　問	吉田　浩己	鹿児島大学稲盛アカデミー長・前鹿児島大学長
顧　　問	海江田順三郎	高島屋開発相談役・旧制第七高等学校造士館同窓会
運営委員長	江口　正純	鹿児島大学同窓会連合会会長・前南国殖産社長
副委員長	岡﨑　弘也	元公立・私立高等学校長
委　　員	原田　耕藏	鹿児島地域振興公社理事長・元県教育長
委　　員	古木　圭介	グローバル ユース ビューロー取締役
委　　員	西郷　隆文	県薩摩焼協同組合理事長・西郷南洲翁曾孫
委　　員	島津　義秀	精矛神社宮司・加治木島津家当主
委　　員	長濵歌都子	日本舞踊藤間流師範・元県立学校教頭
委　　員	森　　隆	鹿児島工業高等専門学校名誉教授
委　　員	溝江　弘明	前南国生コンクリート社長
委　　員	曾木　重隆	野太刀自顕流指導者
委　　員	有馬　義秀	鹿児島純心女子短期大学教授・元公立高等学校長
委　　員	加治屋　鋼	鹿児島県職員 OB
委　　員	福留　克彦	鹿児島大学法文学部同窓会事務局長･鹿児島銀行 OB
委　　員	前田　久男	鹿児島市教育委員会指導員・元中学校長
委　　員	後藤千和子	鹿児島市教育委員会相談員・元小学校長
委　　員	池田　久幸	県ＰＴＡ連合会事務局・元公立高等学校長
委　　員	渡　　康嘉	元 鹿児島青年会議所理事長
委　　員	片平　翔太	ＪＡ鹿児島中央会職員
委　　員	村中　瑛美	ホシザキ南九勤務
委　　員	川畑　俊達	司法書士事務所職員
委　　員	姫木祐太郎	鹿児島大学理学部数理情報学科４年
委　　員	本山　翔伍	鹿児島大学工学部建築工学科３年
委　　員	新地　浪漫	鹿児島国際大学経済学部経営学科３年
委　　員	下池　由華	福祉施設勤務
委　　員	内屋　麗	ＪＰ勤務
委　　員	長友佑太朗	東京大学理科Ｉ類２年
委　　員	北田　瑞希	九州大学２１世紀プログラム２年
委　　員	佐藤　梨央	九州大学２１世紀プログラム１年
委　　員	松永　知也	ラ・サール高等学校３年
監　　事	髙嶺　欽一	元南日本新聞社論説委員長
監　　事	江口　英雄	三島村教育長・元小学校長
オブザーバー	住吉　文夫	鹿児島大学理事
オブザーバー	上谷順三郎	鹿児島大学教育学部教授　教育学部副学部長
事務局長	新宅　和正	西郷隆盛公奉賛会専務理事

平成 27 年 5 月現在

論語卷之四

述而第七　　朱熹集註

此篇多記聖人謙已誨人之辭。及其容貌行事之實。凡三十七章

子曰。述而不作。信而好古。竊比於我。

老彭。好去聲

述。傳舊而已。作。則創始也。故作非聖人不能。而述則賢者可及。竊比。尊之之辭。我。親之之辭。老彭。商賢大夫。見大戴禮。蓋信古而傳述者也。孔子刪詩書。定禮樂。贊周易。脩春秋。皆

藩校造士館で「論語」学習で使っていた山崎闇斎訓『論語集注』（一部）

ＮＰＯ法人造士館講座　　事務局長　新宅　和正
事務局　〒891-0201　鹿児島市喜入町星和台 604-109
電話　090-2586-4846　　FAX　099-347-1127